

事務事業評価シート(平成20年度実績分)

(1) 事務事業の名称・位置づけ [Plan1]

白色のセルのみ入力してください。(コメントを見ながら入力)

事務事業コード	事務事業名		担当課	担当係名	所属長(課長等)名	担当者係長名			
08302	社会教育推進事業		教育委員会	社会教育係	林一昭	福島博久			
	一次評価年月日	平成 21 年 6 月 19 日	連絡先(内線)		2508				
事務事業実施の根拠・位置づけ	会計区分		事業コード	事業名(歳出予算見積書)					
	☒	一般	☐	特別	1051	公民館運営事務			
	☐	一般	☒	特別		#N/A			
	章		(コード選択)	5章	まなび合う社会の創造				
	節		(コード選択)	1節	地方分権化に積極的に対応する				
	項[基本施策]		(コード選択)	511	生涯学習の推進				
主な取り組み		(コード選択)	5111	生涯学習機会の提供					
関連する計画等への位置づけ		☒	第四次行財政改革大綱	☐	3ヶ年実施計画	☐	主要業務報告	☐	その他
事務期間		(開始)	年度 ~ (終了予定)	年度	☒	開始時期不明	☒	終期設定なし	

(2) 事務事業の内容(目的と手段を把握します。)[Plan2]

①対象(～に対して)……この事務事業はどんな人(誰・何)を対象に行っていますか。

何かを学びたいと考えている人や提供したいと考えている人

②目的(意図)(～という状態にするために)……この事務事業のサービスを提供することによって対象をどういう状態にしたいのですか。

ふれあい先生バンク、出前講座、町民企画講座を通じた学習機会の提供による学習意欲の向上

③手段(事業内容)(～を行う)……上記①の対象に対して、どのような手段で②の目的(意図)を達成するか、事業の実施内容(サービスの概要)を記入します。

- ふれあい先生バンクに登録していただき、機会を求めている方に紹介する。
- 役場の仕事を前講座として学習する機会を提供する。
- 町民企画講座として講座開設を図り、参加してもらう。
-

指標化

(3) 活動指標の設定と推移……(2)の③サービスの概要(手段)の指標を表します。[Do1]

区分	単位	実績値		計画値		最終目標年度	
		19年度	20年度	21年度(見込み)		22年度(見込み)	年度(見込み)
①	指標名	出前講座開催数	8	11	13		13
	説明	出前講座を開催した回数	目標値設定の根拠 出前講座を通して理解を深めていただくため、20年度の1.2倍とした				
②	指標名	町民企画講座開設数	3	2	4		4
	説明	町民企画講座を開設した講座数	目標値設定の根拠 自主的に学ぶ機会をつくるため、20年度の2倍とした。				

(4) 成果指標の設定と推移……(2)の②目標(意図)の達成度を指標で表します。[Do2]

区分	単位	実績値		計画値		最終目標年度	
		19年度	20年度	21年度(見込み)		22年度(見込み)	年度(見込み)
①	指標名	出前講座参加者数	289	403	480		480
	説明	出前講座に参加した人数	目標値設定の根拠 出前講座に多くの方が参加して理解を深めていただくため、20年度の1.2倍とした。				
②	指標名	町民企画講座応募者数	20	18	36		36
	説明	町民企画講座に応募した人数	目標値設定の根拠 自主的に多くの方が学ぶように20年度の2倍とした。				

(5) 総事業費(コスト)の推移 [Do3]

※事業費の算定方法 ☐ 決算書・予算書等に記載の数字 ☒ 按分計算による算定

○総事業費(コスト概算)	=①+②	(千円)	921	916	917	917
対前年比		%		99.5	100.1	100
A) その他の財源(国庫支出金・県支出金・地方債・分担金・使用料・雑収入など)						
B) 一般財源(税金)						
①事業費		(千円)	50	50	50	50
対前年比		%		100	100	100
②人件費の概算		(千円)	871	866	867	867
対前年比		%		99.5	100.1	100
	課長	課長補佐	係長	一般職員	延べ人数	年間人件費
	H20 H21 H22	H20 H21 H22	H20 H21 H22	H20 H21 H22	H19 H20 H21 H22	年間人件費
町職員(正規職員)	0.00 0.00 0.00	0.00 0.00 0.00	0.04 0.04 0.04	0.08 0.08 0.08	0.12 0.12 0.12	871
臨時職員	人数及び人件費の算出は別シートで計算となっています。(人件費計算式)シート					0

(6) 項目別評価 [Check]

視点	項目別評価	判定	評価結果
必要性	1. 事業のニーズに変化はありますか	B	A 増加傾向にある B 変化していない C 減少傾向にある D かなり減少している
	2. 町(行政)が関与する必要性がありますか	B	A 町が主体となる必要がある B 町以外の主体で実施できるが町の関与は必要 C 町も関与するが関与の度合いを縮小できる D 町の関与のあり方を再検討する
目的妥当性	3. 対象の設定は妥当ですか	A	A 対象は現在の設定が妥当である Bの場合その具体的な内容をお書きください B 対象の変更の余地がある →
	4. 目的(意図)の設定は妥当ですか	A	A 目的(意図)は明確で上位の施策に合致している Bの場合その具体的な内容をお書きください B 目的(意図)は上位の施策に合致していない点がある →
有効性	5. 期待された成果は得られましたか(成果指標の目標値への達成度)	C	A 期待したとおりの成果があった C・Dの場合その具体的な内容をお書きください B 概ね期待したとおりの成果があった C 期待したほどの成果が得られなかった → 町民企画講座は18年度から実施したため、まだ町民に伝わっていないことが多いので、今後機会をとらえてPRしていきたい。 D 成果が少なく今後も向上する見込みがない →
	6. 連携可能な事務事業はありますか(町以外の取り組みも含めて)	A	A すでに実施している A・Bの場合その具体的な内容をお書きください B 今後は可能性がある → 公民館運営事業 C 今後も可能性はない
効率性	7. 成果を下げずにコスト(事業費・人件費)を削減できますか	B	A 余地なし C・Dの場合その具体的な内容をお書きください B 当面は余地なし C 一部余地あり → D かなり余地あり →
公平性	8. 受益者負担は適切ですか	B	A 検討の余地なし C・Dの場合その具体的な内容をお書きください B 当面検討の余地なし C 一部検討の余地あり → D かなり検討の余地あり →
その他	9. 現在の事業内容(サービス)に対して、対象の声やニーズを把握していますか	B	A アンケートなど具体的な方法で把握している A・Bの場合その具体的な把握方法を、Cの場合その理由をお書きください B 日常業務の中で把握している → 町民企画講座の参加者から把握 C 把握していない

(7) 改革改善 [Action]

今後の方向性(上記評価結果をもとに今後の方向性を記入します。) **口を一つチェックしてください。**

- ア. 現状のまま継続する
 イ. 見直しのうえで継続する
 ウ. 終期設定
 エ. 廃止
 オ. 休止

〈今後の展開方針〉(イを選択した場合のみ口を一つチェックしてください)

- a 重点化する(コストを集中的に投入する等)
 b やり方を改善する(実施主体や実施の手段を変える)
 c 効率化を図る(コストを下げる)
 d 縮小する(簡素化する)
 e その他(別事務事業に統合する等)

(ウ・エ・オを選択した場合のみ記入してください)

時期(年度)

事業改善の経過

(事業改善をした内容と実施時期を記入します。)

平成18年度から町民企画講座を実施。

事業の方向性の具体化

(誰が、何を、いつまでに、どうするか(5W1H)等の改革改善案を記入します。)

学習機会の提供を勧めるため、町民企画講座・出前講座の宣伝に努める。

21年度予算見積書への反映 あり なし

[反映内容]

(8) 所属長 所見 (事務事業の総合評価及び今後の方向性について)

(評価事務事業の責任者の意見として、総合的な評価に関する所見を記入します。)

学習の場を提供することで、町民同志が自主的に学び合うような機会が増えるよう期待したい。

上位の施策の推進に貢献していますか。口をチェック

- A. 貢献度 大 D. 上位施策なし
 B. 貢献度 中
 C. 貢献度 小

(今後の方向性 口を一つチェックしてください。)

- ア. 現状維持
 イ. 見直しのうえで継続する
 ウ. 終期設定
 エ. 廃止
 オ. 休止



上記 a~e を選択